

「美しさ」と「らしさ」

「人は美しいものを求める」と言われます。有名なアブラハム・マズローの欲求段階説に従うと、美しさへの欲求は審美的欲求とされ、第5段階目の「自己実現への欲求」に属します。これは最上位の欲求にあたり、“美”は究極の欲求の一つであるというわけです。よく考えると、美しいものは人を幸せにします。美しいものに憧れたり、手に入れたくなります。花や景色、クルマ、服装、異性もそうかも知れません。建造物もそうです。何より多くの人々は美しくなりたいと願います。

では、その“美しい”とは何か？という疑問です。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、美しいという漢字は、「羊」が「大」きいと書きます。古くから羊は人間に豊かさをもたらし、貴重な財産でもありました。病気で痩せ細った羊より、健康で丸々と太った大きな羊の方が人を幸せにしてくれます。すなわち、“美しい”とは単に見た目がきれいなことではなく、人間にとって“有益である”、あるいは“幸せにしてくれるもの”と理解できます。美味しいものは人を幸せにします。広辞苑には“美”について、「よいこと」とも書かれています。

ところで、美しさは特別なことなのか？という二つ目の疑問です。美しい人は少数派で貴重な存在であり特別なのか？興味深い研究結果があります（過去にマスコミでも報道されています）。人の顔写真を他の人の写真と合成して標準化していくと、数が増すにつれて美男や美女になっていくというものです。この結果からは、美しい人は特別な存在ではなく、平均的な顔の人ということになります。これには科学的根拠があり景観工学にも通じる場所もありますが、本題ではないので割愛します。

すなわち、人の顔を数重ねていくと平均化され、人の顔らしく（日本人だけの写真なら日本人の顔らしく）なるわけで、この“らしさ”が大切ということです。犬らしい犬ほど美しい犬とされるそうですが、これも同じことかも知れません。景観も地域らしさとの調和や融合が求められます。

ちなみにミスコン優勝者の写真を合成すると、同じ数の写真でも更に美男美女になるとの結果がでています。

（地域景観チーム首席研究員 松田 泰明）

* * * *

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。